



情報技術課 課長代理 小林 様

講話内容

- ・ 地域企業における DX の取組
- ・ 会社概要、事業内容、研究開発内容、押出成形機についてなど

学生のワークシートから抜粋

【わかったこと等】

- ・ 設立 1930 年（創業 93 年）。
- ・ ゴムプラスチック押出成形機・電線被覆製造装置などの開発、設計、製造、販売をしている。
- ・ 自動車関係や免振建材など、ゴムを使った幅広い製品を作っている。
- ・ ホースや LAN ケーブルなどを生産できる機械を作っている。
- ・ 押出成形とは、シリンダの中でスクリーを回転させ連続的に成形を行う技術。
- ・ 縁の下の力持ちのような企業で、様々な大手企業と取引している。
- ・ 個別受注生産で、機械装置を製作している。
- ・ ゴムプラスチック押出成形機は部品点数約 750 点（製作期間 3 か月）、電線被覆製造装置は部品点数約 2500 点（製作期間 4 か月）
- ・ 押出成形機は様々な業界で使われていることがわかった。
- ・ 化学発泡は気泡径が大きいのが、超臨界発泡で微小気泡を実現している。
- ・ DX の定義は「データやデジタル技術を使ってビジネスモデルや企業文化の変革に取り組むこと」
- ・ DX の推進には業種や企業の特徴、取り巻く環境を理解し上で構築することが大切。
- ・ 自社製品の IoT 化や SFA の導入などの取組を行うことで、稼働状況の可視化、分析などによって業務を効率化している。PLM や ERP の導入にも取り組んでいる。
- ・ 可視化、情報の一元化によって業務が効率化した。
- ・ デジタル化をすることによってたくさんのメリットを得られたことがわかった。

【考えたこと、感想等】

- ・ 独立して製品をほぼ社内で作って直接取引するのは企業としてすごいと思った。
- ・ 押出成形で色々なものが作れるのが興味深かった。
- ・ あまり聞いたことのない会社だったが、とてもやりがいのある仕事だと思った。
- ・ 有名企業に製品を納めていたりしてすごいと思った。
- ・ 中小企業で下請けでないのはすごいと思った。
- ・ 企業が求める DX 人材の詳しいことを聞いてよかった。
- ・ DX は業種によって活用の仕方が違って、それぞれの会社に合った活用をすることが必要だと思った。
- ・ あくまで DX は、目標を達成するための手段で、自分たちも最大限取組んでいくのが大切だと思った。
- ・ どの企業も効率化することを重視していると思った。
- ・ DX 人材の必要性について詳しく知れたので、活かしていきたい。
- ・ 就職するときの参考にしたい。
- ・ 実際に会社に行ってみたいと思ったし興味があったので、それについて調べたり勉強してみようと思った。
- ・ 同じ千曲高校出身の人（講師）で、面白い話や、ためになりそうな話を聞いて活かそうだと思った。
- ・ 現実的な話もいろいろしてもらって参考になった。
- ・ 研究開発による新技術を使って前のものよりも更に良いものができて、すごいと思った。